

開講年度	2023	ナンバリング	13MD0102(2015) 13MD0102	学期	後期	開講学年	1	授業方法	講義	単位数	2
授業科目名	メディア論I、デジタルアーカイブメディア論										
授業担当者	井上 透						実務経験	有			
実務経験内容	国立科学博物館・国立青少年教育振興機構における調査研究、デジタルアーカイブを中心にした情報集積・活用のための研究開発			実務経験と授業との関係			デジタルアーカイブを中心にした情報集積・活用のための研究開発実績を活用した授業を行う。				
授業の到達目標及びテーマ	メディアの特性や現在のメディア環境を理解し、デジタルアーカイブ開発における情報源のデジタル化において、メディアの利用（収集・保存・管理・発信）方法を具体的に習得する。また、デジタルアーカイブ構成において、利用者から求められるユニバーサルデザインによるメディア利用環境への対応や、多様なメディアを有機的に結合し、適正化を行い提供する方法や、APIを通じたオープンデータ化による分野横断型統合ポータルサイトへの接続について事例を考察し、実践的な開発力を獲得する。			ディプロマポリシーとの関連性			デジタルアーカイブ開発に関する、高い専門性と技能を育む。				
授業進行形態	講義										
シラバスの到達目標	1. デジタルアーカイブの対象（情報源）となるメディアの特性（環境）を理解する。 2. メディアの利用（収集・保存・管理・発信）方法を具体的に習得する。 3. 利用者から求められるユニバーサルデザインによるメディア提供方法を習得する。 4. 多様なメディアを有機的に結合し適正化を行い提供する方法を習得する。 5. オープンデータ化による分野横断型統合ポータルサイトへの接続について事例を考察し、実践的な開発力を獲得する。										
授業の概要	デジタルアーカイブの対象（情報源）となるメディアの特性（環境）を理解し、メディアの利用方法（収集・保存・管理・発信）を実践的に習得することを目指す。また、デジタルアーカイブ構成において、利用者から求められるユニバーサルデザインによるメディア利用環境への対応や、多様なメディアを有機的に結合し適正化を行い提供する方法、APIを通じたオープンデータ化による分野横断型統合ポータルサイトへの接続について実践的な開発力を獲得する。										
準備学習の具体的内容	博物館、図書館、大学等研究機関、自治体、企業から提供されているデジタルアーカイブを知識基盤として、実際の学修に活用する。										
予習の内容	参考書の該当箇所を箇条書きで簡潔にまとめ理解する。							予習時間	1.0時間		
復習の内容	事後ネットでアップする講義資料を箇条書きで簡潔にまとめ理解する。その後、課題に取り組み成果を提出する。							復習時間	2.0時間		
アクティブ・ラーニングの要素	課題解決型学習										
オフィスアワー	サイボウズにより予約 毎週月曜日4限目										
授業計画	1 メディア利用の変遷 2 デジタルアーカイブの情報源となるメディアの特性（環境） 3 メディア環境調査の実施 4 メディア環境調査の分析 5 メディアの利用①デジタルアーカイブ概論 6 メディアの利用②多様なデジタルアーカイブ 7 メディアの利用③データサイエンス入門 8 メディアの利用④著作権、肖像権、プライバシー保護等権利処理 9 メディアの利用⑤メタデータの理解（検索にかかる用語の選択）										

	10 メディアの利用⑥メタデータの整理（分類基準作成） 11 メディアの利用⑦マーケティング 12 メディアの利用⑧プレゼンテーション（基本） 13 メディアの利用⑨プレゼンテーション（検索利用） 14 メディアの利用⑩環境への対応（ユニバーサルデザインの実現） 15 課題と考察		
試験及び方法	試験及び課題レポート提出	フィードバックの方法	
テキスト	・『デジタルアーカイブの理論と実践』 日本デジタルアーキビスト資格認定機構編 樹村房 2023年 ・iPadにて利用可能なPDFデータを学内ネットで提供する。		
参考書	『内閣府知的財産戦略本部 我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて2020年8月』 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/pdf/r0208_3kanen_houkoku_honbun.pdf 『内閣府知的財産推進本部 知的財産推進計画2022（2022年6月）』 http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/chizaikeikaku2022.pdf デジタルアーカイブ・ベーシックス、知識インフラの再設計、勉強出版、2022年 『知的生産の技術』梅棹 忠夫著（岩波新書）1969年		
学生に対する評価及び基準	・授業への積極性（30%）、課題レポート（30%）及び試験（40%）により評価を行う。 ・メディア環境の理解、デジタルアーカイブの対象、デジタル化、権利処理、プレゼンテーション方法の基本的理解を基準として評価を行う。		
再試験	有		
臨時休業等に伴う遠隔授業の対応について	全ての講義で対応可能		